

1. 長期成長ビジョン

2024年に創業400周年を迎える長崎カステラ本家の福砂屋“ゆっくりと未来へ”

10年後の2033年期に福砂屋全社グループ連結で年商134.3億円(2022年同期比+64.5%)へ

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

- 創業400周年を迎える“ゆっくりと未来へ”
- 手わざ 時をつなぐ 心をつなぐ **カステラ技術と文化の継承**
- 若年/中年層を中心とした国内顧客層及び海外顧客層を中心とした**ターゲット及び市場範囲の拡大**
- ターゲットの拡大に応じた**新商材へ開発投資**
- 成長拡大に合わせた**生産能力向上と生産効率化へ設備投資**

売上成長目標

(グループ全社連結)2033年度 134.3億円

- 2033年期末までの長期の売上高成長率+64.5%
 - 2033年期末までの長期の売上高増加額+52.7億円
- * 上記2022年度比較

(東京連結) 2033年度 88.0億円

- 2033年期末までの長期の売上高成長率+146.0%
 - 2033年期末までの長期の売上高増加額+52.2億円
- * 上記2022年度比較

外発的動機

- 世界名目GDP成長率ワースト4位の主因となる人口減少
- 少子高齢化と百貨店市場の縮小、主要顧客からの需要低減
- 材料や人材コストの高騰と競争激化から優位性の低減リスク
- 海外アジア/アフリカ人口の増加、需要の増加と多様性の要求

内発的動機

- 変化し続ける400年間における市場へ適応の重要性の再認識
- 従業員への生産負荷の軽減、賃金水準向上、環境改善が必要
- カステラ文化と技術継承をビジョンとする更なる味と品質の追求
- 現工場の老朽化と生産ライン改良の必要性

福砂屋新東京工場(南町田工場)の建設及びカステラ及び新商品生産ラインへの総額50.3億円の設備投資
労働生産性1,643万円/人(年5.5%の上昇)及び従業員1人あたり給与総額564万円(年4.0%上昇)へ

補助事業の
背景・目的

- ・ 現中目黒から新南町田へ規模拡張の上、移設及び効率化された新生産ライン開発
- ・ 既存取引先、国内新規取引先、海外市場への展開を踏まえた生産能力240%への拡張
- ・ 焼成、切断梱包工程の自動化投資を中心とした112%の生産効率向上と省力化
- ・ 新商材の生産ラインの立ち上げ

事業費
(補助額)55億円
(17億円)設備投資の
内容

- ・ 南町田自用土地に4階建て工場を建設、建築総額34.0億円
1-3Fを生産を中心とした生産ラインエリア、4Fを福利厚生エリアとして設計
- ・ 生産能力向上と省力化を実現するライン構築のための機械設備投資の総額14.8億円
(3F)
カステラ用量産焼成ラインを12ライン
(現工場6ラインの生産能力に対して総計240%/日定時1勤制)
(2F)
240%生産能力向上に適合したカステラ切断及び梱包の省力化新ライン
(3F/1Fと合わせて現状に対し人件費ベースで112%相当の省力化、効率化の達成)
新商材の販売に備えた生産ライン構築 投資額1.4億円
(1F)
上記の生産能力向上に適合した在庫保管及び流通配送ライン
海外市場への販売に備えた生産設備 投資額1.0億円
- ・ 生産体制を支援する新型システム構築等1.5億円



(写真1) 現中目黒工場外観



(写真2) 新南町田工場外観

目標値

項目	2026年度 (基準年度)	2029年度 (基準年度+3年後)
労働生産性 (単位:万円/人)	1,400	1,643 (年平均上昇率+5.5%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位:万円/人)	501	564 (年平均上昇率+4.1%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位:万円/人)	-	- (年平均上昇率+5.0%)
補助事業に係る従業員数 (単位:人)	209	222